

情報処理学会創立 25 周年記念特別功績賞

情報処理学会の創立 25 周年の記念行事として、我が国の情報処理技術の萌芽の時期に前人未踏の分野を開拓され、今日の情報処理の隆盛の基礎を築かれた先覚者を顕彰するため、情報処理学会創立 25 周年記念特別功績賞が、去る 5 月 17 日開催の第 26 回通常総会の席上、めでたく贈呈されました。

受賞者 7 名の方々は別掲の説明にあるように、それぞれの立場にあってはやくから情報処理技術の重要性を深く認識され、1950 年代前半（昭和 30 年頃まで）の我が国のコンピュータの黎明の時期に前人未踏の新分野を先頭に立って開拓された文字通りの先覚者ばかりであり、今日の情報処理の隆盛の礎を築かれた功績は誠に大きいものがあります。本会創立 25 周年にあたり、これらの方々のご苦心を偲び功績を顕彰することが出来ましたことは誠に意義深いものがあると存じます。



山下英男君
やま した ひで お

(明治 32 年 5 月 21 日生)

山下 英男君は昭和 15 年頃より二進法に基づく独自の電気統計機の開発研究に着手されるなど計算機研究の萌芽期から先導的研究を進められました。我が国の計算機の黎明期である昭和 26 年欧米訪問を契機としていち早く国際的視野に立って計算機の開発の必要性を説き昭和 27 年には電子計算機プロジェクト TAC を興され、これを指導されました。このプロジェクトは我が国における本格的電子計算機研究として広い分野に大きく影響を及ぼし我が国の情報処理技術の発展を促しました。また国際計数センター (ICC)、国際情報処理連合 (IFIP) 設立に参画されるなど国際的にも多くの貢献をされました。このように山下英男君は我が国の情報処理の創成の時期から広い分野に亘って多大の指導的役割を果され今日の情報処理の基礎を築かれました。

情報処理学会創立 25 周年記念特別功績賞



後藤 以紀君
ごとう もちのり

(明治 38 年 2 月 10 日生)

後藤 以紀君は電気・電子・情報の広い分野に先駆的研究を指導され多大の貢献をされましたが、特に情報分野においては論理代数に遅延演算を導入した全く独自の順序回路理論を開拓され、その理論成果を適用して昭和 26 年には我が国最初の非同期式計数型継電器計算機 ETL-MARK-I の開発を開始され昭和 28 年初めにこれを完成されました。次いで本格的実用機として ETL-MARK-II の開発プロジェクトを開始され、これも昭和 30 年に完成に導かれました。これらの成果は我が国の情報処理技術の黎明の時期に大きい影響を与えその後の計算機開発の礎となりました。このように後藤以紀君は我が国の情報処理の創成の時期に誠に重要な指導的役割を果たされました。

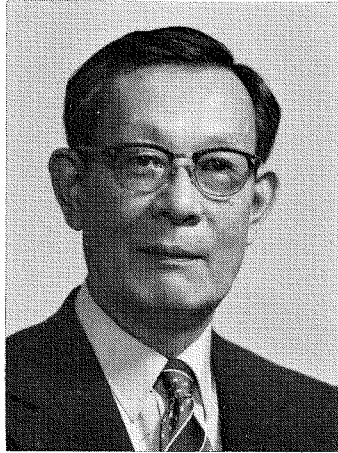


岡崎 文次君
おかざき ぶんじ

(大正 3 年 7 月 7 日生)

岡崎 文次君は写真機用レンズ設計の必要性から電子式自動計算機の開発を決意され、情報処理技術の黎明期の昭和 24 年頃から基礎研究を開始され、昭和 27 年末からは実際に計算機の組立に着手されました。当時文献はもとより適当な部品も測定器も入手困難な時代に卓抜した見通しと創意により幾多の困難を克服して遂に昭和 31 年 3 月には我が国初の電子式自動計算機 FUJIC を完成されました。この成果が我が国の情報処理技術の創成の時期に果たした先導的役割は図り知れないものがあり、その後の計算機研究の発展の重要な契機となりました。このように岡崎文次君のこの業績は誠に我が国の計算機の歴史に特記されるべきものであります。

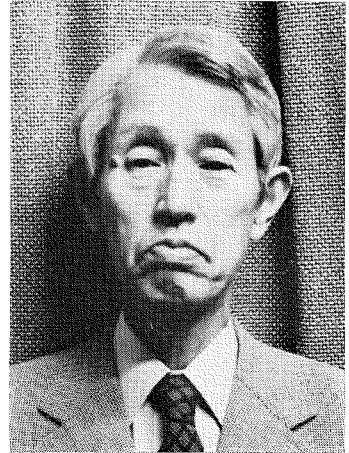
情報処理学会創立 25 周年記念特別功績賞



和田 弘君
わだ ひろし

(大正3年11月10日生)

和田 弘君はエレクトロニクス技術の重要性に着目され、昭和29年に電気試験所電子部を創設しいち早くトランジスタによる計算機の開発に着手され、卓越した指導力により昭和31年7月には世界初のトランジスタ式電子計算機 ETL-MARK-III を完成に導かれ、直ちにその改良機 ETL-MARK-IV の開発を指導され昭和32年11月にはこれも完成に導かれました。このトランジスタ計算機の完成により確立された技術はその後の商用コンピュータの基本として我が国の情報処理産業の基礎となりました。さらに情報産業育成のための行政を促進されるなど和田弘君が我が国の情報処理産業の基盤形成に果された指導的役割は誠に多大であります。



高橋 秀俊君
たか はし ひで とし

(大正4年1月15日生)

高橋 秀俊君は計算機の黎明期からその先駆的基礎研究を進めて来られましたが、昭和29年からは、透徹した先見性と卓抜した着想によりパラメトロン計算機の開発を指導されました。計算機が未踏の分野であったこの時期に、論理回路、ライブラリ、初期ルーチン、数値計算法などハードウェア及びソフトウェアの全てに亘り独創的な研究指導を行われ、昭和32年には実験機 PC-1/4、昭和33年3月に PC-1 として完成に導かれました。この研究は我が国の電子計算機開発に多大の影響を与え先導的役割を果しました。このように高橋秀俊君は我が国の情報処理技術の基礎を築くのに際立った貢献をされました。

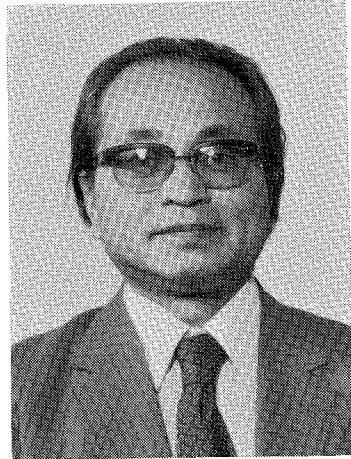
情報処理学会創立 25 周年記念特別功績賞



喜 安 善 市 君
き やす ぜん いち

(大正 4 年 12 月 11 日生)

喜安 善市君は早くから電気通信とコンピュータ技術の融合の必然性と重要性を認識し、情報処理技術の萌芽の時期に電気通信研究所において、昭和 29 年にいち早く自動計算機開発計画プロジェクトを立案推進され、卓越した指導力により昭和 32 年にはパラメロン計算機 MUSASINO-1 号を完成に導かれました。このコンピュータの開発成果がその後の我が国のコンピュータ技術の発展に及ぼした影響は多大であり、この開発を通じて喜安善市君が我が国の情報処理技術の開拓に果された指導的貢献は誠に顕著であります。



森 口 繁 一 君
もり ぐち しげ いち

(大正 5 年 9 月 11 日生)

森口 繁一君は我が国の情報処理の黎明期にあっいち早くコンピュータの応用の重要性を重視され、日本科学技術連盟の PC (パンチカード) 委員会、プログラム懇談会、数理科学総合研究第 IV 班の活動としてのプログラムシンポジウムなどの創設と発展に尽力され、また電子工業振興協会での共通言語 SIP の開発など我が国のプログラム、ソフトウェアの進歩と普及に努められ、情報処理誕生の時から一貫して計算機応用を開拓されました。このように森口繁一君はこれらの活動を通じて我が国の情報処理の発展に多大の指導的貢献を果されました。